

北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区＜農業生産体制の強化事業＞ (税制・金融支援の特例活用(平成26～29年度実施))

特区の主な目標

- 北海道の食産業の国際競争力を強化し、オランダのフードバレーに匹敵する食の研究開発拠点・輸出拠点を目指す。
- 特区内の十勝地域は我が国有数の食料生産基地であり、「食」と「農林漁業」を柱とした地域産業政策「フードバレーとかち」を推進。十勝の特性・優位性や蓄積されてきた産業基盤を活用し、オール十勝で産業振興に取り組んでいる。

事業の概要

- 十勝管内においては税制・金融支援を活用し、長いも、馬鈴薯、玉ねぎ、豆類等の集出荷施設等を整備して、国内はもとより海外への輸出拡大を目指し、生産体制の強化を行った。

(例)

■施設整備主体:「帯広市川西農業協同組合」

■主な施設整備

- ・長いも洗浄選別・製品保管施設(H26～税制支援)
- ・玉ねぎ集出荷貯蔵施設(H27～金融支援)
- ・加工用馬鈴薯集出荷貯蔵施設(H29～金融支援)
- ・豆類集出荷施設(H29～金融支援)



長いもの収穫作業



長いも洗浄選別・製品保管施設

特区における効果

- 主要な農産品に対する施設整備の拡大により、特に十勝管内9JAで生産する「十勝川西長いも」はアジアをはじめ海外でも高い評価を得ており、販路は台湾から北米などへ順調に拡大している。
- これらの取組により、十勝管内での畑作における輸出・輸入代替額は、前年度(H28)と比較して約24億円増加するなど大きな効果が生まれており、本特区の目標達成に大きく寄与している。